

# きぼうの虹

## KIBO NO NIJI

**発行所**  
 北海道大学生協同組合  
 札幌市北区北8条西7丁目  
 教職員委員会編集  
 電話 011-746-6218



**百年記念会館**  
 教職員写真同好会 仲澤将夫

### 主な記事紹介

- 二面 **Peace Now! NAGASAKI 2015 参加報告**  
 毎日食べている食堂のご飯へ農家の方の想いに触れました  
 こころの健康を考える⑦ 健康な食生活のために
- 六面 **植物園に行こう** 第五回
- 七面

留学生組織委員 宇ノダオオナオナ  
 北海道大学大学院 教育学研究院 渡邊 誠  
 北方生物園フィールド 科学センター植物園 富士田 裕子

10月5日、米国アトランタで開催されていたTPP12ヶ国の関係者が閉幕し、交渉の「妥結」が宣言されました(日本では「大筋合意」と呼んでいます)。日本が紆余曲折を経てTPP交渉に正式参加したのは2013年7月23日なので、そこから数えれば2年2ヶ月です。数多くの難航分野を抱え、協定の是非をめぐって各国の世論を二分していたにもかかわらず、異例のスピード決着でした。

当初は「本当に合意したのか？」と疑いたくなりましたが、11月5日に協定の全文(暫定版)が公表され、出来上がっていることは一応確認しました。ただし、協定の「発効」をすぐに見通せる状況にはありません。まだまだ長いステップが必要です。鍵を握るのは米国の国内手続きで、次のステップである「署名」は、早くても来年2月以降になるでしょう。署名すれば協定が成立し、直ちに批准の手続き(議会審議)に入るのが通例ですが、ちょうど大統領選挙の予備選と重なりま

す。民主・共和ともに候補者が一本化されるまでは、あからさまに「TPP賛成」を唱えることはできないでしょう。また、11月の大統領選挙と併せて、上院・下院議

## Opinion!

**TPP 大筋合意は「終わり」ではない**



大学院農学研究院講師  
東 山 寛

員も改選されるので、議員達も慎重にならざるを得ません。

現時点で署名のタイミングがいづになるのかわかりませんが、日米ともに議会(国会)にかけられるのは、早くも2017年初頭でしょう。日本の国内対策も、このような日程感を念頭に置いた

検討が進められています。日本はTPP交渉で「関税撤廃率95%」を約束してしまいました。これまでのEPA(経済連携協定)で最も高いのは、日フィリピン協定の「自由化率」88.4%、日豪EPAの「関税撤廃率」89%です。同じような指標ですが、前者は10年以内の関税撤廃品目の割合で、後者は10年超のものも含みます。こ

れまで、政府がEPAで公表してきたのは「自由化率」の方でした。88%と95%という数値には、それほどの違いはないと思われられるかもしれませんが、農林水産品だけを取り出してみると(自由化率)、日フィリピン協定の59%に対して、TPPは実に79%です(関税撤廃率では81%)。農林水産分野に限って見ると、自由化率を59%から79%へと大幅に引き上げたのがTPPの本質です。日本の農林水産業にとっては、まさに前代未聞の事態です。関税を残した品目についても、大幅な関税削減や輸入枠の設定を吞まされて、「無傷」のものは何もありませんでした。

だから政府も「国内対策とセットで交渉結果を評価して欲しい」と言わざるを得ません。日本の場合、国内対策は農業対策であり、11月末には政府の「対策大綱」が策定されます。しかし、肉付けされるのは、2017年予算を編成する来年夏以降になるでしょう。その前に通常国会があり、参院選(7月)があります。国会論戦や選挙戦を通じて、TPPの是非や影響をじっくり見定めるべきです。「これで終わり」ではなく、ここからが始まりだと考えています。

# Peace Now! NAGASAKI 2015参加報告

## ～終戦から70年、今こそ平和について考える～

留学生組織委員 エリック オフォスーチュム

全国大学生協連合会は、1981年から大学生協の平和活動の根幹として、それに参加した学生が戦争被害を体験することなどから戦争の惨禍を知り、平和を考えるきっかけとして「Peace Now!」を開催しています。今年も北大生協から学生を派遣しました。



最終的には自分に何ができるか考える。の想いで、2015年8月8日(土)～11日(火)に開催された「ピースナウ長崎2015」に参加しました。

### <4日間のスケジュール>

- 1日目：フィールドワーク（爆心地など）、学習会、被爆体験を聞く。
- 2日目：フィールドワーク、暑くて大変だった。  
浦上天天堂、ミュージアムでファットマンの模型を見た。  
原爆70周年記念日で式典に参加。
- 3日目：原爆について学習。福島大から学生2名が参加して体験を話してくれた。  
NPTについて学習。世界の原発事故について。フィールドワーク。
- 4日目（最終日）：まとめ

全国から80人の大学生と実行委員12人が参加し、8つのグループに分かれての活動で、毎日かなりハードワークでした。

学んだことは、どんな状況でも戦争は解決法ではない。世界の平和を守るには自分の努める力があります。第二次世界大戦に起こったことを次の世代に伝えましょう。

私は、周りのみんなと話し合いたい。核はいらない。



前号の「Peace Now! OKINAWA 2015報告」で知事の名前を「尾長」知事と記載しました。正しくは「翁長」知事です。お詫びするとともに、訂正いたします。

## いじわるじいさん

11月4日の厚生労働省発表の就業形態の多様化に関する調査結果によると、労働者にしめる非正社員の割合が4割に達したという。この結果を他人事としては受け止められなかった▼非正規職員だった私は、それ故の情けなさを再三味わった。だが、周

りの人達に救われる思いをしたことも多い。その一つが研究のこぼれ話を聞かせてもらうことだった。聞いた日は楽しく、情けなさを忘れた▼今年夏、北極圏のノルウェー、トロムソに行った。台形型の山が町を見降ろしていた。ケーブルカーで山に登る。3分の2ほど上がった所で緑の林が消えた。森林限界だ。その先は茶色の植物が地を這い雪も残る▼山頂には所々に積み石が置かれ、樹は見えない。と思ったら、ネコヤナギが！すぐH先生を思い浮べた。洪水の後で真っ先に根づくこと、マイナス100度でも生きることなど、ペットの話でもするようにヤナギの話を聞かせてくれた▼勤務条件を承知して働いていても不遇をかこつ時がある。今の非正社員の職場に、不遇を忘れさせてくれる人との交流があつてほしい。もちろん労働に見合った条件で、落ち込むことなく働けるのが一番だが。

(今日子)



# 毎日食べている食堂のご飯

## ～農家の方の想いに触れました

2015年度産地交流企画北海道産米【ななつぼし】  
田植え・稲刈り企画体験レポート

大学生協では、毎年食堂で食べているお米を生産している農家の方々と田植えや稲刈りを体験することによって交流する機会を設けています。今年も、5月30日から5月31日に田植え体験を9月に稲刈り体験を行っています。北大生協からは、院生委員会から3名が通じて参加して生産者の熱い思いを体感しました。院生2名のレポートを誌上に掲載しましたので、ご一読ください。

農家の方の涙ぐましい努力を体感しました

院生委員 北原将行

日本の米作りの初期から変わらない手作業による田植えと稲刈りを体験し、稲の植える目印や刈った稲の結び方といった一つ一つの作業に無駄がなく、古くから培われてきた日本の米文化を感じました。また、北海道米は猫もまたぐほどの米だと揶揄された20年ほど前から、農家の方々がこのままではいけないとプライドをかけて涙ぐましい努力を重ねて、現在の大ブランドにまで成長したという話は非常に印象的でした。現在でも、説明会中に提供された黒大豆のお茶や、ソフトクリーム、黒い恋人（黒大豆のキャラメル）、さらには北海道新幹線に提供予定のとうきび茶といった事業にも手を広げており、作業以上に農家の方々の溢れる活気を感じました。又、農家同士の横のつながり、野心も農業という楽しさだと思えました。田植え・稲刈り後の各交流会では農家の方々の、農家になるまでの経緯や苦労、日々の喜びを聞くことができ、自分の将来を考えていくうえでも参考になりました。個人的には地元に近い東川町での体験ということで、田んぼから眺める遮蔽物のない景色や空気

感、学生生活を過ごしている札幌と様々な面で環境の違いを感じ、すごく懐かしい気持ちになりました。

田植え・稲刈りの各行程で大塚ファームも見学しました。大塚ファームがとっている経営戦略が大変興味深く感じられました。稲刈りの際には有機トマトのピニールハウスを回らせてもらい、その過程にある様々な工夫を説明していただき、改めて有機農法の難しさを感じました。その中でも、有機農法ならではのメリットとして、の年を追うごとに土が強くなることや、高利多売によるブランドの確立といった長期に向けた考えは非常に面白かったです。有機トマトは種類も豊富で、中にはトマト甲子園を制覇したものもあり、大変貴重な収穫現場を拝見させてもらいました。他にも、トマトの種類の豊富さの理由や、袋詰める野菜への工夫、ドッグフードの開発はあらゆる経験を糧にしてきた話で、今のファームがで

きるまでの大変な努力を感じました。

田植えと稲刈り、両体験を通して、「北海道の農業は凄い！」という点が端的な感想である。本来、水稲を育てられる環境でない北海道にて、品種改良を続けてきた。その結果、1990年の「きらら397」を皮切りに、約20年で北海道の品種が最高ランク認定を受け、全国1位の生産高を占める年も出てきた。畑作も、単に生産・収穫・出荷するのではなく、黒豆・キャラメルのように製品化したり、有機農法による付加価値をつけたりと、生産努力をしていくことを学べた。もちろん、他の地域においても生産努力はされているが、北海道においては、たとえ品種・スタイルが確立してもそれに甘んじることなく、チャレンジし続けるその姿勢が結果的に功を奏している点が凄いと感じた。



春・秋の参加で、より生産者の生の声に触れられたと感じる。田植えの時は、その作業体制がわからなかったのも影響しているが、稲作に関する一般的な知識・生産方法についての話がメインだった。一方、稲刈りでは、一度お会いしていることもあって、TTPPに対する考えや生産者への代金支払システムなど、稲作に関連する苦労話・裏話を伺えたからである。

特に、北海道農業の持続性についての話が印象に残っている。「北海道での新規農業は、コスト・環境的に厳しく、農家の子が農業を継がないと無理」という話を伺った一方、継ぎたくない若者の増加という現状もある。せつかく地位を確立しつつある北海道の農業にとって、その持続には人材確保が重要なのである。そのため、新規農業のサポートだったり、農業に対する魅力の提供だったり、課題はたくさんあることを実感した。このように、北海道農業の基礎的な知識を学ぶのみならず、その苦労や裏話・生産者の想いなども知ることができた。その結果、農業の重要性と持続のための課題について親身に考えるいい機会となる、本当に貴重な体験ができた交流会だった。

稲刈り作業の様子



# キャンパス放浪記 in 函館…第4回

## 侮るなかれ！函館キャンパスの魅力

北海道大学水産学部 清水 優

皆さんは函館キャンパスに対してどのようなイメージをお持ちですか？札幌キャンパスと函館キャンパスのどちらも訪れたことがある方は、「札幌キャンパスに比べたらすごく狭くて、さびしい所」と思っているかもしれません。確かに敷地面積を比べたら、函館キャンパスはかなり小さい……。しかし、函館キャンパスに実際に登校して授業や研究をしている水産学部の学生しか知らない「函館キャンパスの魅力」についてはご存知ないかと思います。そこで今回はその魅力について紹介したいと思います。

### コンパクトなキャンパス

札幌キャンパスの敷地面積：約1.77km<sup>2</sup> ※

函館キャンパスの敷地面積：約0.089km<sup>2</sup> ※

上記のように敷地面積を比較すると、「札幌キャンパスに比べて狭い」と感じるのも当然です。しかしこれが、函館キャンパスで生活する上でメリットになっているということは知らない方も多いのではないのでしょうか？

とても広い札幌キャンパスを利用して、「移動の距離が長すぎる」「全部ひとつにまとまっていればいいのに……」と感じたことがある方は少なくないと思います。私も大学1・2年生の時、札幌キャンパスに通っていて、「講義棟とトレーニングセンターとの移動に時間がかかって不便だな」と感じていました。しかし、函館キャンパスではそのように感じる必要はありません！なぜなら、研究棟・講義等・食堂・生協・体育館・図書館などがすべてコンパクトに函館キャンパス内にまとまっているからです。そのため、「授業の休み時間にちょっと小腹がすいたから生協にお菓子を買いに行く」、「研究中ストレス発散のため体を動かしに体育館に行く」というようなことが気軽にできてしまいます！

※敷地面積のデータは以下のページより抜粋

<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gaiyou/2008/P48/P48.htm>



<http://www2.fish.hokudai.ac.jp/images/6180-1.jpg>

狭い!? いいえ、コンパクトなんです!!

### 理想的な立地

親もとを離れて一人暮らしの大学生は多いと思います。そんな一人暮らしに欠かせないお店が函館キャンパスの周りには集まっています。

函館キャンパスの道路を挟んで東側には、食材を調達できるスーパーが、西側には生活用品をそろえられるホームセンターやドラッグストアがあります！さらに、もし自炊が面倒くさくなったとしても、近くには定食屋、ラーメン屋、全国的にも有名なご当地ハンバーガーショップがあります。夏休みなどの長期休暇で時間をもてあましてしまっても、大学の隣にあるレンタルビデオ屋に駆け込めば暇になることもありません。クラスや部活で打ち上げをしたくなったら、焼肉食べ放題を学生に優しい価格で提供しているお店まであります！

### 海が見えるキャンパス

魚などの研究を行う水産学部だけあって、水産学部には釣り好きが多いです。その釣り好き達にとって喜ばしいのが、キャンパスの裏にすぐ海があること！海まで徒歩5分でいけ、大学の西隣りのホームセンターで釣り餌も売っているため、「授業が終わって気分転換に釣りに行く！」ということができてしまいます。ご飯のおかずにもできるような魚を釣ることもでき、大学近くの学生が多く住むマンションでは、釣ってきたであろう魚達がベランダや玄関前で干されている光景をよく目にします。

またこのような釣りに最適なキャンパス事情から、大学3年生に進級し、函館キャンパスに移行してから釣りを始めて、釣りの楽しさを知るという学生もいます。



いかがでしたか？函館キャンパスは札幌キャンパスと比べ狭いながらも、函館キャンパスならではの魅力があります。今後はじめて函館キャンパスを訪れる方、一度函館キャンパスに来てネガティブなイメージをお持ちの方もぜひ、「もし自分が水産学部生だったら」という視点で函館キャンパスを回ってみてください。きっとこの魅力が分かっていただけだと思います。

# 北部トラベルセンターはこう変わります!

## 学生組合員の勉学・研究を支えるサービスに集中します。

11月2日(月)より、北部トラベルセンターのサービス内容が大きく変更になりました。サービス内容の変更についてご紹介します。

**学生の勉学研究や旅行については、これまで通りサービスを続けます!**

学生向けの旅行プランは、他の旅行代理店よりも多く扱っています。帰省や就活のための移動手段・宿泊の確保だけではなく、短期語学研修のパックや長期留学などの勉学研究のための手配や、国内・海外の卒業旅行・学生旅行、サークルの遠征、温泉でゼミ合宿などの色んな場面でトラベルセンターはサポートします。学生が気軽にご来店いただきご相談できるよう努めます。



**ご不便をおかけしますが、研究室ご訪問等のセールス業務は終了させていただきます。**

航空会社の経営悪化などから、2010年頃より航空券等の販売手数料は実質ゼロに近く、人件費も賄えない状態となっています。トラベルセンターでは、2012年に2店舗から1店舗に統合するなり人員削減などの効率化を図ってきましたが、厳しい状態が続いておりました。

これまでご利用いただいた組合員の方にはご不便をおかけしますが、チケットのお渡し、お支払いや校費伝票の受領訪問などのサービスを終了させていただきます。

これに関連して、JRの個人向け乗車券等のお取扱い中止や、国内線航空券の手配料金を頂くこととさせていただきます。ご理解のほどお願い致します。

不明な点がございましたら、

**北部トラベルセンター (学内線 5124)**

へお問い合わせ願います。

なおトラベルセンターの営業時間については、これまで通りです。

## 『きぼうの虹』2015フォトコンテスト応募写真展を開催しました。

夏に開催した、北大生協教職員委員会主催の「きぼうの虹」企画のフォトコンテストにご応募いただいたほぼすべての写真を展示しました。テーマは『北大百景』。様々な北大の表情が、個性豊かな62点の作品になりました。

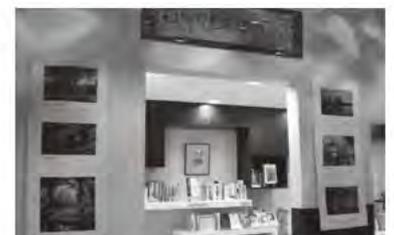
写真は11月16日(月)～11月28日(土)の2週間にわたって、北大生協会館店の階段壁に展示しました。買物のついでに立ち寄った方、応募されたご本人やご友人等いろいろな方にご鑑賞いただきました。ご覧になった方からのアンケートでは、「力作揃いでびっくり!」「様々な視点から北大らしさが表現されていて良かった」「階段は見づらい。部屋を借りて展示しては」など多くのご意見・ご感想が寄せられました。

また、会館店での展示会に先行して、11月5日(木)から北大正門横のエルムの森ショップでも、入賞作品6点を展示していただきました。こちらは観光客の方も多く来店され、一般の方にも鑑賞していただきました。

展示を快く引き受けていただいたエルムの森ショップの方々、応募していただいた皆さん、ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。また来年もフォトコンテスト開催予定ですので、是非ご応募ください。



生協会館店展示会での様子



エルムの森ショップでの展示

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



理系の大学院で研究者を目指す若い人と話していて気づいたのですが、実験で良い結果が出るかどうかと、精神状態には関係があるようなのです。これは考えてみれば当たり前ですが、その当時の私は、なにか盲点に触れたような気がしたことでした。大学におけるこの健康を考えるとき、そこでの中心的な営みの一つである研究との関係は、重要なものだと考えよう。

この問題には、いわゆる「研究の厳しさ」が関係してくる面があるでしょう。学問研究においては、事実・真理を明らかにすることを最優先し、そのためには忌憚らない、ときに激烈でさえある言動をも厭わない、というのが、暗黙のものであるにせよ規範(強い言い方をする)と「掟(すね)ではないかと、私は大学院生の頃からずっと感じていました。ところで、十八世紀から十九世紀にかけての日本の国学研究の史実における、本居宣長、上田秋成、平田篤胤といった学者たちの激論の様が、足立巻一『やちまた』には出てきます。また、ほぼ同じ時代の西欧における力動精神医学(精神分析学を含む精神医学の流れですね)の歴史的研究には、学会で論文を発表した自分が、「壁にはえをたたきつけるように粉碎された」、などというものすごい証言が記されています。こちらは、アンリ・エレンベルガー『無意識の発見』から。こうして見ると、学問研究の、世間一般からは「人でなし!」と思われそうなこの流儀には、洋の東西を超えた必然性と普遍性があるように思います。まあ、時代と領域とによる違いは、かなりありそうですけれども。

とは言っても、現実には、研究発表をしたら壁にハエを叩きつけるように粉碎されたとなる



と、これは精神的には大変です。私の修了した大学院の修士論文発表会は、そんな場でした。ほぼ例外なく、発表は寄つてたかつて徹底的に批判されます。論文の出来がよろしくなかった私は、発表後三十分は魂が抜けたようになり、半年は落ち込んでいました。修士論文発表会の場には、いつも血の雨が降っていたのです。しかし、この話、医学系の臨床と研究に携わる先生に話してひどく驚かれ、かつ同情されたという経験があり、領域や学風によって、やはり大分違うのだとは思いますが。

研究は、それを行ってゆく限りは、様々な形での批判にさらされることはある程度避けられず、特に若い駆け出しの頃にはその機会が多いのではないのでしょうか。大学におけるこころの健康を考える場合、この「研究の厳しさ」との折り合いのつけ方というのが良さそうです。この場を借りて、しばし考えてみたいと思う所以です。

まずは、まあ、この研究の流儀なるものについて理解し、その意義を認めるところから、でしょうか。もちろん、これに関してはいろいろな意見があつてよいと思います。アカデミック・ハラスメントにつながり得る問題でもありましよう。しかし、「研究の厳しさ」なるものが、物事を厳密な形で解明してゆくための必然かつ普遍的なものである、との認識を持てると思えば、だいぶん気持ちが変わるようになると思います。丈夫なハエになりたいものですね。

## 中央厚生センターの未来を考えるワークショップを開催します

北大生協環境委員会では、築38年を迎え老朽化が進んでいる中央厚生センター(通称:中央食堂)の未来を考えるワークショップを開催します。「どんなときに中央食堂を利用するか?」「どんな空間であってほしいか?」など身近なことから意見交換をはじめ、最終的には新しい時代のニーズを満たす中央食堂のあり方を考えます。

本企画は北大サステイナブルキャンパス推進本部からの助成と支援を受けて実施するものです。キャンパスの中で欠かせない学生・教職員の「福利厚生」を考える場にできればと思います。

(環境委員長・大村)

### 開催要項

- 実施日: 12月12日(土) 14時~16時 (13時30分開場)
- 会場: 学術交流会館第3会議室
- 対象者: 学内学生及び教職員
- 参加費: 無料(予約不要)



暫定版ポスター

## 第5回

# 植物園に行こう

## 扇状地の上の植物園

北方生物圏フィールド科学センター植物園 富士田 裕子

植物園の庭園部分は、11月4日から冬の閉園期間に入りまし  
た。来春4月29日の開園まで、  
冬期間は温室のみの開園となり  
ます。今回は、来年春季以降、植  
物園にご来園の際に植物に加え  
て園をお楽しみいただくために、  
微地形や植生について園内ツ  
アー形式で紹介いたしますしよ  
う。

植物園の入口に立つてみま  
しょう。職員および公用の駐車  
スペースがありますが、このあ  
たり、歩道や車道と比べるとか  
なり段差があつて低くなつてい  
ます。実はここ、かつて池があ  
つた場所なのです。植物園は、  
石狩川の支流である豊平川の扇  
状地上に位置しているのです。昭  
和の初め頃までは、園内の複数  
個所で泉（メム）が湧き、園内  
を小河川が緩やかに流れる地味  
豊かな場所でした。写真（上）  
のように、植物園入口付近は池  
状になつていたようです。11月  
に放送されたNHKの「プラタ  
モリ札幌編」では、植物園の入  
口より100mばかり北に進ん  
だ道路がカーブしているあたり  
にも実は池があつたことが明か  
されていきました。かつては植物  
園の周辺は、水の豊かな場所

だったのですね。

園内に入つてみましょう。入  
口でもらつた園内地図には園路  
が書かれています。この園路  
が初代園長であつた宮部金吾博士  
が、設計時に学生を植物園予定  
地の中を自由に歩かせ、その踏  
み跡を園路としたという逸話が  
残っています。これは、植物園  
予定地が、川が流れる緩やかな  
高低差がある微地形だつたため  
に、学生さんたちが、その地形  
にあわせて歩きやすい場所を無  
意識に選択して歩くだろうと、  
宮部先生が想定されていたから  
と思われまふ。確かに入口から  
宮部金吾記念館方向に進むと、  
小川にむかつて横に高まりや低  
まりを見ながら、路が緩やかに  
下つていくのがわかります。

現在、植物園内を流れる小川  
の水は、泉が枯れてしまつたの  
で、地下水をポンプアップして  
流しており、原生の景観ではな  
いのですが、泉が湧いていた頃  
はもつと水量も多かったそうで  
す。「湿生園」がある博物館裏手  
の木道のかかるあたりは、「幽庭  
湖」と名付けられ（そのいわれ  
は定かではありません）、ポ  
ートを浮かべることができると  
なつたことが古い写真からもわ

かります。（写真下）

さらに湿生園を抜けると通称  
「眼鏡橋」と呼ばれる小さな太鼓  
橋が小川にかかっています。こ  
の小川は眼鏡橋からさらに先の  
北側の部分で行き止まりになつ  
ており、現在では水はここから  
地下に浸透しています。昔はさ  
らに川は桑園方面へと続いてい  
ました。

園内には、樹高30m前後の大  
きな樹木が多数ありますが、植  
栽した樹木以外は、元々植物園  
にあつた自然の樹木が、植物園  
の景観の一部として活かされ、  
開園後の約130年で巨木に成  
長したものです。最近、寿命が  
来て倒れたり折れたりするもの



昭和初期（推定）の植物園正門付近



大正末から昭和初期（推定）の幽庭湖

が増加していますが、これらは  
ハルニレ、ハンノキ、ヤチダモ、  
センノキ、ミズナラ、ウダイカ  
ンバ、ドロノキなどの落葉広葉  
樹で、冷温帯地域の扇状地上の  
森を形成する樹種です。特にハ  
ルニレは河川の自然堤防上に、  
ハンノキやヤチダモはその後ろ  
側の後背湿地に出現する樹木で  
あることから、植物園やその周  
辺の扇状地には、湿生の広葉樹  
からなる巨木の森が広がってい  
たと想像されます。今では、開  
発しつくされ、そのような森を  
見ることができないのですが、  
植物園は人手が入つてはいるも  
の、古の景観を想像できる場  
所となつています。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

### 北大生協組織委員会報告

#### 学生委員会

■店舗活動「ポッキーの日」  
11月11日のポッキーの日に合わせて、購買でのイベントを行いました。今年は、北部、中央、会館、工学部の4店舗で展開し、1年生のみならず上級生のみならずにも多く参加していただきました。

ポッキーの箱を積み上げて景品をゲットする「ポッキータワー」、北大生協組合員がN.O.1ポッキーを選ぶ「ポッキーダービー」を実施したほか、生協店舗の魅力を伝えるパンフレット「TEMP O」を配布しました。

1年に1度のポッキーの日の楽しみ方はそれぞれだと思いますが、生協店舗だからこそできる企画で楽しんでいただけたなら幸いです。

#### ■受験生・新入生対象の活動スタート

受験生・新入生を対象とした活動が始まります。未来の組合員である人たちに大学生協を知ってもらうだけでなく、受験や新生活への不安や疑問の解消を目指して活動していきます。毎年好評の「北大生と話そう」や新入生歓迎冊子「北大生の生活」など組合員のみならずといっしょにつくっていく新学期活動にしていきたいので、取材や企画運営などご協力お願いいたします。

#### 院生委員会

■書評誌「ほんでないかい」  
2015」発行にむけ取組中！  
今年の「ほんでないかい」は、例年同様に投稿された書評の掲載、北大生協書籍部紹介、それと北大OB・OGによる特別インタビュー企画となっています。書評の投稿については、多彩な本を紹介するという編集コンセプトのもとで投稿を呼びかけて11月13日まで締め切りました。ご投稿してくださった院生の皆様には感謝申し上げます。

特別インタビュー企画は、北海道大学農学部OBで、現在徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授玉真之介教授に、北大在学中のエピソードや本とのかわりや全国大学生協連・教職委員会が呼びかけている「リーディングリスト運動」を中心に10月17日(土)にインタビューしました。

書籍部紹介もクラーク店の品揃えや職員の紹介を中心に誌面を構成する予定でいます。これから12月末発行に向けて推敲及び編集作業をしています。

毎年ご愛読されている方々には、もう少々お待ちください。乞うご期待です！



#### 留学生委員会

■北大国際本部主催「新入留学生オリエンテーション」10月2日(金) 参加生協と委員会を紹介。

■「今秋新入留学生ウエルカムパーティー」10月9日(金)開催

18ヶ国103名が集って交流を深めました。今回は飲食文化の全てをハラルで用意。日本の食文化にも触れていただく工夫に、みなさん笑顔で頬張っていました。恒例の国名ビンゴ大会での大盛り上がり、生協の紹介に続き中古自転車をもろうための説明には熱心に聞き入っていました。パーティー終了後は、日用雑貨品の数々を自由に選びながら持ち帰って行きました。日用雑貨品提供にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

■「中古自転車譲渡会」に先駆け「事前説明・手続き会」10月19日(月)開催  
開催会場の生協会館・多目的ホールは、身動きできないほどいっぱいになりました。今回は大卒からの要請を受け、学生賠償責任保険の説明も行いました。

■「中古自転車無料譲渡会」10月25日(日)開催  
当日は半端な寒さではなく雪・霰、大粒の雹や霰が降る横殴りの強風の中、JR琴似高架下で2時間以上にわたる譲渡会になりました。73台をお渡ししました。



#### 教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所  
8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告のあと、教職員の皆様に利用者の立場から組合員の声等を行っている。11月は17、19日、25日に開催しました。

■教職員委員会・毎月1回、18時～20時に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。11月は19日に開催しました。

■きぼうの虹  
この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。連載記事を常時募集しています。この場で学生や教職員に何か発信してみませんか？お気軽にお問い合わせください。

■6月に募集したフォトコンテストについてですが、11月に生協会館にて応募作品展を開催しました。入賞作品については北大インフォメーションセンターにも展示させていただきました。(詳細は本誌5ページ)

■昨年の1月、TPP交渉が佳境に入ったとの報道があり、東山寛先生に講演をお願いしました。それから一年半以上経過し交渉が大きく進展したため、今号では冒頭に記事執筆して頂いております。この場を借りましてお礼申し上げます。過去記事を見返すと、少しずつ時代が変化していることを感じますね。

■各種連絡先  
北大生協理事会室  
(学内内線) 3285  
seikyout@coop.hokudai.ac.jp